ヌヴォトン テクノロジージャパン労働組合
スローガン　新たな「結（ゆい）」「絆（きずな）」を築く
Azalea　号外
⇩ 最新組合情報をアップしてます！
ホームページ　http://www.ntju.jp/　〔ID〕ntju　〔パスワード〕ntju0901
【発行人】山本 明広
【編集人】経営政策部

センター長・総括部長　対談　～2022～

従業員の皆さんにセンター長・総括部長の人となりを知っていただくため、対談を実施しました。
ぜひご一読いただき、職場でのコミュニケーションにご活用ください。

マニュファクチャリングセンター

プロフィール

氏名：梶原　大平（かじわら　だいへい）
年齢：57歳
趣味：ゴルフ、野菜作り
経歴：生産技術部（北陸3拠点）
　　砺波、新井、PIDSCA（シンガポール）
　　MFC・AMTC～現職

しっかりとした計画を立てぬくことの大切さ

私は、入社以来、30数年間、海外も含む様々な生産拠点で、沢山の製造関連のプロジェクトに携わらせていただきました。これらのプロジェクトを通じて多くの経験が出来たことが、自分の宝になっていると思います。会社生活の前半の20年は、製造ラインを新しく構築する業務を担当し、北陸3工場のほとんどの拡散ラインの立ち上げプロジェクトに参画してきました。その中でも一番の思い出は、魚津E棟の工場立ち上げのプロジェクトリーダーとして、更地から建屋の設計・建設、設備導入、インフラ構築を短期間に行い、世界初の65nmプロセスの製品を出荷することが出来たことです。その時に学んだことは、目標を達成するための計画を立てぬくことの大切さ、そして、関係部門と連携し、全体を把握した上で、様々なリスクを想定しながら、一つの計画にまとめるプロジェクトマネージメントです。後半の15年間は、製造責任者として活動となりましたが、特に、シンガポールでの工場長、社長としての経験はかけがえのないものとなっています。海外の人達とふれあいの中で学んだことは、本当のコミュニケーションというのは、言葉で語り合うということよりも、その人が持っている人間性みたいなものが、ぶつかり合って理解していくことなんだろうと思います。グローバルに仕事をする上でこの経験が大いに役に立っています。また、拠点再編のプロジェクトも多く担当してきましたが、シンガポール会社のUTACへの譲渡や、上海工場の閉鎖プロジェクトでは、海外ということも相まって、大変苦労しました。このような、難しい局面の中でのモチベーションの維持は非常に難しいですが、自分の中で大義をしっかり作り、それをモチベーション維持に繋げてきました。

コミュニケーションはフェアネスであること

私のコミュニケーションの軸は、フェアネスであることです。人はフェアじゃないと感じると怒りも感じるし、不満も出てくるし、相手のことを理解しようとする、そういう気持ちにならなければ交渉はうまくいかないと思います。難しい交渉になればなるほど、利己的でないこと、自分が得して、相手にわがままを言っていないか、自分自身に問いかけます。自分のことだけを考えて発言したり、物事を要求していると相手は絶対歩み寄らないです。節度をもって、相手にとって正しいこと、相手のメリットは何か、こちらが発言したことに対して、相手はどう思っているのかを理解、想像しながらコミュニケーションすることがポイントだと思います。また、海外の人と話す時は、通訳を介さず、直接Face to Faceでコミュニケーションを取ることが、お互いを理解するための近道だと思います。

また、ここ直近では、AMTCを担当させていただきました。事業をすることの楽しさや、AMTCの若い活力溢れるメンバーと一緒に仕事ができたことは、私の会社人生にとって大切な経験の一つとなっています。

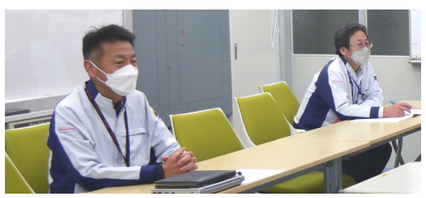
趣味もチャレンジしながら楽しむ

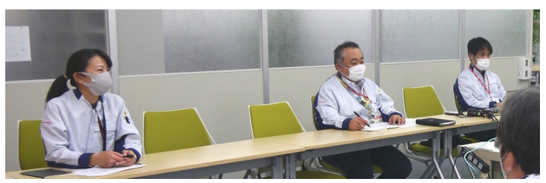
ゴルフはシンガポール赴任してから始めました。ゴルフの良い面は、色々な方々と知り合う機会ができることと、一緒にコースを半日かけて回るので、プレイ中のコミュニケーションを楽しんでいます。また、野菜作りは、富山勤務の時に始め、近年では1年前から農園を借りて野菜作りを再開しました。今は、季節の野菜を作っています。野菜作りは、1年に1回しか収穫が出来ないので、今回は何を植えようか、作り方をどうしようか等、試行錯誤しながらやっています。最近では、苗を買ってそのまま植えるのではなく、種から植えて苗を育てることにもチャレンジし、肥料の与え方など周りの方々から助言をもらいながら楽しんでやっています。

～メッセージ～
我々の持っている技術を遺憾なく発揮しよう

NTCJになり、ものづくりの位置づけも少し変わってきています。また、半導体を取り巻く環境も大きく変わりつつあります。NTCJのモノづくりはFabliteに向かっていますが、この中で、我々が培ってきた製造プロセス技術を活かしていきたいと考えています。製造を委託する場合にも、委託元の我々もモノづくりのプロフェッショナルでなくてはいけません。また、委託先の技術と我々が持っている技術を掛け合わせることで、より一層強い商品を生み出すことができます。これだけのプロセスの技術を保有している部門は、Nuvotonグループの中でも、唯一無二の存在だと思っています。決してこのFabliteという方向性に悲観することなく、我々の持っている技術を遺憾なく発揮して行きたいと考えています。

最後になりますが、製造部門として収益改善のために、これまで工場閉鎖や拠点再編などの改革を行ってきました。これらの取り組みは将来に向けた布石であり、強固な収益体制を確立するために欠かせないプロセスだと思っています。特に北陸工場の経営体質改善はNTCJの収益を大きく改善することにつながっていきます。2022年は、これらの仕上げの年になると思っていますので、マニュファクチャリングセンターの活動に引き続きご支援をお願いいたします。





技術開発センター

プロフィール

氏名：辻川　洋行（つじかわ　ひろゆき）
年齢：59歳
趣味：ゴルフ、旅行
経歴：マイコン設計、半導体物理設計検証システム
　　半導体自動設計システム・要素技術
　　半導体技術戦略・基盤技術～現職

300mm工場の事業化で世界初をやり遂げる

私は、これまでの会社生活において、特に300mm工場の事業化タスクフォースでの活動が、非常に大きな経験となっています。短期間に工場建設から、品種・プロセス開発、量産をやり遂げることが使命であり、そのメンバーの一員として活動しました。沢山のプロセスを同時に並行して動かす難しさを感じながらも、当初の目標を達成し、世界初の65nmプロセスの製品を出荷することができました。

「知の深化」「知の探索」

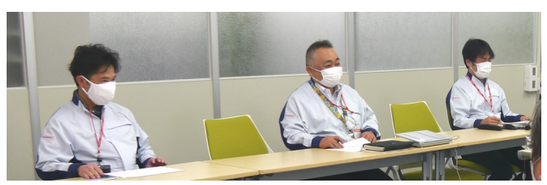
これまでの体質強化や業界全体の追い風もあり、収益が大幅に改善されています。この状況を次に活かすため、我々のマインドをもっと変えていく必要があります。以前は、できるだけ出費を抑えた事業運営であり、従業員一人ひとりが、思考の制約を自ら設け、また、そういう感覚に慣れてしまっていた感じがします。そのような制約を取り払い、次の成長に向け、我々は今、何をすべきかという思考に変えていく、それが「知の深化」であり、「知の探索」であると思います。特に「知の探索」は、次のステップアップの兆候を掴んで、シナリオに落とし込む。ただ、その後、うまく回すことが出来ないことに対して、台湾の経営陣は非常に素直な思考で、次の成長をよく考えておられるし、また、我々が提案したことに対しては、すごく応援してもらえる、躊躇がないですね。台湾の経営陣の考え方を我々が学び、学んだ中から次の一手を打っていくという、そこにスピード感が必要だと思います。また、台湾の経営陣は、人に対する投資を惜しまない、人をすごく大切に考える、そのようなスタンスに立たれています。従業員に対して、ちゃんと考えてあげてほしいというメッセージをよく聞きますし、人の採用に対する前向きさを感じます。現在、特に海外では技術者の採用が非常に難しい中で、日本の技術者に対する期待値は高く、日本での積極的な採用活動と開発体制の強化が望まれています。今後、我々の技術者が活躍できる場を広げていくことが、Nuvotonグループ全体がグローバルに成長していくことへのお役立ちだと考えています。

休日は家族に料理を振舞う

最近、気になるのは、体重ですね。コロナ禍になってから運動量が減ったことで体重が増えました。夏場は平日の早朝、冬場は土日の明るい時間帯にジョギングを行い、走ることで体重を維持している状況ですね。あと、妻が土日に働いているので、家族に料理を作って振舞っています。料理を作り始めたきっかけは、当時、休日に子供と一緒に外食したとき、妻が働いて稼いだ給料以上に浪費していると感じ、そこから料理を作り始めました。最初は、食材にもこだわっていましたが、だんだん手抜きになり、特に冬場は手軽な鍋が多くなりますね。あと、ここ2年ぐらい、京都のお寺を回っています。最近は、梅、その後、桜、新緑、紅葉と季節を感じることができます。この2年はコロナ禍であり、観光客が少ないため、ゆっくり楽しむことが出来ています。

～メッセージ～
企業を支える技術イノベーションを起こす

2020年9月にヌヴォトンテクノロジージャパンが発足しましたが、半導体の取り巻く環境が大きく変わっています。半導体不足という状況から、半導体を単なる部品として調達したらよいという感覚ではなくなり、各国政府の考えとして、半導体を確保することが経済安全保障上、非常に重要になったと思います。したがって、半導体を確保しないと国や産業がもたない、製品が出来ないから生活できない等、これまでとは半導体のプレゼンスが大きく変わりました。だからこそ、半導体に求められるサプライチェーンはもっと柔軟に、もしくは強固なものにする必要性があります。また、コロナにより世の中が変わり、結果としてDXが加速しています。DXの加速に伴い、クラウドやネットワークの電力破綻が起きるリスクが高くなってきており、エッジコンピューティングによる負荷低減に向けた先行技術開発にチャレンジしたいと思っています。また、今までとは全く異なる感覚で、カーボンニュートラルに対して、前向きな行動を取らない企業は、認めてもらえない状況になっています。カーボンニュートラルの加速に向けて、半導体がどう貢献できるかという点では、この2年で大きく様変わりしました。特に技術イノベーションを起こしていく、それが企業の成長を支える、その時にDXやカーボンニュートラルは、どういうことをして、どういう解決手段を提供することが我々の貢献に繋がるのかという、そんな見方をしている状況ですね。色々な技術活動、技術開発は、DXやカーボンニュートラルの方向感の中で、我々の活動の新しさを打ち出して技術検討や知の探索をみんなと一緒にやっていきたいと思います。カーボンニュートラルであれば、A005/A007/A008が開発を進めている電池や水素は、再生可能エネルギーを普及させるKey技術になります。世の中がデータで爆発する、ネットワークが破裂する、クラウドサーバーの電力破綻することに対して、A008/A006が進めているエッジコンピューティングの進化により、エッジがもう少し賢くなれば、電力破綻を抑え込むことができるので、そこに対するマーケティングや技術の深掘りを行いたいと思います。社会貢献に向けて我々の商材や技術を組み合わせることで結果的に利益になって返ってくると思います。



新たな「結（ゆい）」「絆（きずな）」を築く

対談は終始和やかな雰囲気で行われました。最後に二川副委員長から、本企画への協力のお礼とともに、NTCJの事業の成長発展と、従業員一人ひとりがいきいき、ワクワクと働き続けることができる風通しの良い職場環境づくりを行いたい旨、お伝えしました。今後も、様々な活動を通じてボトムアップの取り組みを行って参ります。

NTJU NUVOTON TECHNOLOGY JAPAN WORKERS UNION